

報道関係者 各位

2022. 6. 1
< 配信枚数2枚 >**生物資源研究センター×R-GIRO「気候変動に対応する生命圏科学の基盤創生」プロジェクト共催
シンポジウム「生体膜・脂質研究の最前線」開催**

日 時：2022年6月10日（金）13：00～16：00

開催方法：現地開催（立命館大学びわこ・くさつキャンパス）とオンライン同時開催

立命館大学生物資源研究センター（※1）およびR-GIRO「気候変動に対応する生命圏科学の基盤創生」プロジェクト（※2）は、6月10日（金）、「生体膜・脂質研究の最前線」をテーマに、シンポジウムを開催いたします。

地球上のあらゆる生命は細胞から成り立っており、細胞は、主に脂質で構成された膜によって外部環境との隔たりが作られています。また、私たち、ヒトをはじめとする真核生物は、細胞内に膜で囲われた独自の形態や機能をもつ構造体（オルガネラ）を有しています。細胞やオルガネラを形作るこのような膜は生体膜と呼ばれ、細胞の形を維持し、また、外界と異なる特殊な環境を生み出すことで、生体内で起こる反応を効率よく行うための場を与えています。

本シンポジウムでは、生体膜や生体膜を構成する脂質に関わるさまざまな研究分野の第一線で活躍されている先生方に講演いただきます。生命の基本単位である細胞の構成に必須な生体膜や脂質について理解を深める機会となれば幸いです。

記

日 時：2022年6月10日（金）13:00～16:00

（入場開始 12:30、ウェビナー入室開始 12:50）

開催方法： 現地：立命館大学びわこ・くさつキャンパス ローム記念館 5階 大会議室
オンライン：Zoom ウェビナー

対 象： どなたでもご参加いただけます。

参加費： 無料 ※事前に申込フォームへご登録ください。

申込方法： 現地参加、オンライン参加のいずれも下記 URL よりお申し込みください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/events/detail/?id=1144>

共 催： 立命館大学生物資源研究センター、R-GIRO「気候変動に対応する生命圏科学の基盤創生」プロジェクト

※詳細は別紙をご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、徹底した感染防止対策を講じた上で開催します。

※「ワクチン接種証明書」もしくは「(72時間以内の)抗原検査陰性証明書」をご用意ください。

※感染状況により実施形態や登壇者の発表方法が変更になる場合がございます。

以上

本リリースの配布先： 草津市政記者クラブ、科学記者会

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学生物資源研究センター シンポジウム運営事務局

Email. sb0051rk@ed.ritsumei.ac.jp

プログラム ※敬称略

13:00 **開会あいさつ**

立命館大学生命科学部 教授、立命館大学生物資源研究センター センター長
石水 毅

13:05 **はじめに**

立命館大学生命科学研究科 博士後期課程 2 回生
上嶋 里菜

13:20 **講演 1「生体膜主要リン脂質の生合成を担うホスファチジルセリン脱炭酸酵素の構造生物学的研究」**

山形大学理学部理学科 講師
渡邊 康紀

13:55 **講演 2「生体分子の再構成による人工細胞膜の機能化」**

群馬大学大学院理工学府 助教
神谷 厚輝

14:30 **休憩**

14:40 **講演 3「スフィンゴ脂質から紐解く植物の生体膜機能」**

立命館大学生命科学部 助教
長野 稔

15:15 **講演 4「非天然骨格を有する CERT 阻害剤の SBDD 研究」**

第一三共 RD ノバーレ株式会社
中尾 直樹

15:50 **閉会あいさつ**

立命館大学生命科学部 教授、立命館大学生物資源研究センター 副センター長
武田 陽一

※1 立命館大学生物資源研究センターについて

生物資源の有効活用を目的とした産学官民の連携拠点。生物資源に関わる幅広い分野の研究者が農作物生産(土壌診断・病害虫対応・収量向上・ICT 化)、バイオマス利用技術の開発、食品生産技術、環境保全技術、ビッグデータの生物資源活用への応用、食農連携モデル構築などの研究に関わり、産学官民の連携も進めています。

ウェブサイト http://www.ritsumei.ac.jp/research/center/bio_resources/

※2 R-GIRO「気候変動に対応する生命圏科学の基盤創生」プロジェクトについて

「暴れる気候」ともいふべき気候変動が日常化しつつある地球において、今後 100 年間に対応すべき重要課題(100 年課題)を解決するための持続可能な戦略と科学技術基盤を創出することを目的としています。「100 年課題」として、農業、食料、植林・森林、木材生産、CO₂ 吸収、バイオエネルギー作物、自然環境保全、気候変動、生物多様性保全を設定。植物科学、農学、微生物学、古気候学、農業経済学、国際法学など多様な分野を結集してこれらの課題に取り組みます。

ウェブサイト <http://www.ritsumei.ac.jp/rgiro/activity/program/fourth/projects/mihara.html/>